

# 「まんどうらいつ異聞2011」

はせ ふうごう

## ◆登場人物◆

星田  
小林  
岸野  
寺田 (監守A)  
南森 (監守B)

郷田  
白井  
平林  
柴田  
信子  
鈴木

監守A)が登場。部屋を軽く点検する。奥の扉へ消え、やがて出てくる。窓に近付き外を点検して、再び拘置エリアへ出ていく。

開演5前、一般エリアへの通路から一人の男が落ち着きない仕草で登場。部屋の椅子に座り、何やら試案。しばらくして目に付いた壁の白衣を身にまとい、再び通路から姿を消す。ややあって、遠くで流れていたピアノ曲がF・O。「在監者は、それぞれの運動を止め、速やかに房内に戻りなさい」とのアナウンスが2回流れる。

【SCENE・1】錠前と大扉のSEの後、スーツ姿の女性所員と30代の男が登場。男は手にバッグ。無言で入室をすすめられ、男が先に入る。自分も入る女性所員。

岸野里子 とまあ、一通り見てもらったわけですけど、さらに詳しい見学は明日の午後にでも時間を取りますから。

星田俊介 …ああ、ええ。お願いします。

岸野 それでここが、とりあえずの先生のお部屋となります。

星田 (部屋を見直し) はい。

岸野 何分、あの首都圏大地震の後、急速振り分けられた施設ですので、いろいろ不自由はあるでしょうが、

星田 ああ、僕なら構いません。まだまだ勉強の身ですから。むしろ大学の研究室っぽくて、その…落ち着きます。

岸野 (笑顔で応えて)…ご自分でお持ちですか? 白衣。

星田 ああ、ええ。普通のものでよければ(バッグから出す)

岸野 強制ではありませんが、監内を歩かれるときは、なるべく着用ください。入りたての監守もいますので、ご迷惑のないように。

星田 はい。

岸野 (壁にかかった白衣を示し) よければこちらでもご利用ください。

星田 はい。

開演10分前。頑丈な錠前が開けられる音、金属の大扉が開く音がして、ややあって拘置エリアから一人の女監守らしき人物(以下リングには、ここを使っておいででした。そのあたりは相談して決めて下さ

い。

星田 ええ、そうします。

岸野 ……小林先生とは…？

星田 ええ、電話で一度ご挨拶ただけで、

岸野 なかなか活発でユーモアがあつて…いい先生です、

星田 はい。そう伺つてます。

岸野 では、まあ、後はおいおい、ゆつくりと…ああ、そうそう、今、談話室

の改装に取りかかっていますので、月に2回の映画観賞会や将棋の会には、こ

星田 を使わせていただくかも知れません。その時は前もって連絡しますので。

岸野 わかりました。

星田 この先は、左手が小林先生のお部屋、さらに進めば、先ほど見ていただい

星田 た一般施設につながります。それと室外にも。

岸野 ああ、なるほど…承知しました。

星田 ……それで…と、こんなところかしら。

岸野 また、分からなかったらお尋ねします。

星田 そうですね。では、まずは、おかつるぎ下さい。

星田 ありがとうございます。

拘置エリアへと去る岸野。見送り、肩の力を抜いて、改めて室内を見白井

渡す星田。戸棚の本などを眺め、やがて奥の扉に消える。暫しの間。

通路の方から声がする。やがて幕前に白衣を着て出ていった男と、女

囚2人が入ってくる。

白衣の男 ……だからね、その辺は僕を信じて従ってほしいんだよ。確かに君たち星田

の言い分も分かるさ。だけど、それは君達の大きな誤解だ。私は少しも君たち

を偏見の目で見てはいない。むしろ、君達の人権を守ろうと、この監内では、

誰よりも頑張っている人間なんだぜ。さあ、節ちゃん、そこへ掛けて。ほら、

平林君も。どう？ 落ち着くだろ？ じゃあ落ち着いたところで、もう一度だ

平林君子 わかった、わかった。

白衣の男 OK。節ちゃんは？

白井節 私達は対等です。

白衣の男 うん：いいね。次は、このカウンセリングの必要性だ。いいかい。私

達は対等だ。そして、これは懲罰でもなければ、治療でもない。ただおしゃべ

りをするための時間だ。だから、私達がこれを嫌がる必要はどこにもない。こ

の見事な3段論法がわかるかい？

平林 聞き飽きた。

白衣の男 ……いいだろう平林君。さて、今日は特別な日なんだ。今日からここに

新しい先生がやってくる。それも精神科専攻の大先生だ。私は専門じゃないが、

この先生はすごい人だ。君達がしつかりしていないと、恥ずかしいのはこの私

平林 うるせえなあ、あんたに言われる筋合いじゃねえよ。

白衣の男 また、そういう口の聞き方を…まあ、いい。じゃあ簡単にデータだけ

白井 取らせてもらいますよ。節ちゃん、昨日はよく眠れた？

白井 いつも通り。

白衣の男 夢はどう？ 何か怖い夢でも見たかい？

白井 別に。

平林 (そっぽを向いていたが、キツとにらむ)

白衣の男 ……ああ、そう…それはよかった…

平林 うぜんんだよ！ 独房放り込むぞ！

まあまあ、平林さん…

奥の扉が開き、星田が入室。話をやめる3人。星田、軽く会釈し、白

衣の男も少し頭を下げる。長い間。

星田 ……ああ、どうぞ、続けて下さい。

よけいに硬直する白衣の男。平林が笑い出し、白井が制す。通路から

ワイシャツ姿の男。

星田 ……えっ？

ワイシャツ男 ……おやおや、これはこれは…

歩み寄るワイシャツ男。椅子から慌てて立ち上がる白衣の男。

星田 ああ、君…ここは、その、勝手に入ってもらっては…

ワイシャツ男 郷田君、いつもすまないねえ、私のアシスタントをかって出てるのは、君ぐらいのもんだ。

星田 …えっ？

白衣の男 …ああ、いえ、さしでがましいとは思ったんですけど…全くこの人達は、先生を困らすことばかりで…

平林 誰が？

白衣の男 …ああ、いや…

白衣の男、おもむろに白衣を脱ぎワイシャツ男に着せる。

ワイシャツ男 ……ああ、ありがとう。

白衣の男 いえ、とんでもない…

星田 …え、じゃあ、もしかして…

小林貴一（↑ワ） 内科の小林です。専門は一応、循環機系です。

星田 あ、そうですか、いや、始めまして、あ、いや、電話で少し…

小林 星田先生、ですよね。

星田 ええ、星田俊介です。これは…どうも…

郷田剛志（↑白衣） 郷田剛志です。以後よろしく。私はいつも小林先生のアシ

スタントとして…

平林 おだまり、イカレ頭が！

小林 まあまあ、こちらがY凍の平林さん、そして、白井さん。

白井 こんにちは。

星田 はあ、どうも。星田です…よろしく。

小林 さてと、郷田君。せっかく用意をしてもらったけど、今日のカウセリング

はまたにしよう。皆を、部屋へ届けてくれないかな。

郷田 ああ、ええ…でも、すでにデータはここに…

小林 どうれ。おお、こりや大したもんだ。いつもすまないね。これは後で参考

にさせてもらうから、悪いけど、この人達頼むよ。

郷田 ええ、そういうことでしたら…承知しました。

平林 何が承知しました。このカス。

小林 在監者3名お願いします。まあまあ平林さん…（壁のインターフォンへ向

郷田 さ、皆さん、行きますよ。さ、急いで、白井さんも。

郷田にせかされ、拘置エリアの通路前に一列に並ぶ2人と郷田。やがてSEの後、監守Aが登場。

監守A 失礼します…。

3人にいささか戸惑いながらも奥へ誘導する監守A。

監守A 失礼しました。

監守は基本的に軽い敬礼をする。小林もおどけて做う。監守も去って、やがて錠前と扉のSE。

小林 災難でしたね、初日から。

星田 ああ、いえ…僕こそ失礼を…

小林 改めて…小林良一です。

星田 星田俊介です、よろしく。

小林 びっくりしたでしょ、ごった煮で。

星田 え？ …ああ、まあ。

小林 電話でも話しましたが、もともとは古い拘置所で、そのうち取り壊しにな

ろうって話だつのが、あの地震災害の影響で、急遽大人数になったわけです。

星田 はい。

小林 それゆえ、上告中の未決被告人もいれば、刑が確定し服役中の者もいる。

刑務所と拘置所が隣接し、この医務部を共用しているわけです。精神鑑定で病

院に行ったり来たりしている者もあれば、何より女性の在監者まで。もちろん、

この先では、しつかりエリアが分けられていますからね。

星田 …ある種の、交差点のようなものなんてすね、この医務部は。

小林 ええ、その通り、まあ、服役者の方は比較のおとなしい、いわゆる模範的

なタイプを集めてはあるんですが、未決の中には大物も…、あ、やべ、

小林 ちよっと失礼。

慌てて一般エリアの自分の部屋への通路へ駆け出す小林。郷田が残し小林 たカルテのようなものを見る星田。通路の方から声がして、小林と初老の男が入ってくる。

星田 ……確か、短歌と小説で、何かの賞を。

小林 ええ、冤罪を主張する支援団体も大きいし、一部マスコミも騒いでますか

星田 ……まあ、とはいえ、ここまではなかなか届かないが：

星田 ……なるほど：

小林 彼に関しても、いろいろ手伝っていただく事になると思います。ああそれ

と、とりあえず早急に、担当して欲しい者がいましたね。実はさっきの中に：

星田 白井節ですか？

小林 え？…ええ、やはり分かりますか。

星田 ……はい。…勘みたいなものなんです。

小林 彼女に関しては、どうも僕では務まらない。病院とここを行ったり来たり

です。なかなか鑑定の方も進んでいないみたいだけど、できればそれとは別に、

じっくり診てやって下さい。

星田 ……はい。そうします。

小林 ……お願いします。…さてと、じゃあ、ちよつと、雑用だけ片付けてきます

かな。ま、細かいことは、今夜、飲みながらでもってことでどうです？

星田 ……ええ、ぜひ。

小林 ……さつき先生も言われたが、ココは、ある種の交差点のような場所です。初

めは落ち着かないでしょうが、まあ、気楽に。何なら僕の所も自由に使っても

らって構わないですから。

星田 ……はい。いろいろどうぞ。

小林 ……じゃあ…とりあえず、そんなところで。

暫しの間。S Eの後、監守Aが入る。

監守A ……失礼します。

小林 ……薬を与えたいので、後でよろしく。

監守A ……はい。失礼します。

監守A、柴田を連れ出す。やがてS E。

小林 ……いやあ、失礼失礼、診察中だったのをすっかり：

星田 ……柴田連…やっぱり存在感が違いますね。

小林 ……ええ、ここでは一番の大物です。まあ、事件ももちろんだけど、いろんな

意味でね。

星田 ……(時計を眺め) 4月12日、午前11時25分。地図で見た通り、かな

り山が迫っているものの、今のところ持病の花粉症は現れていない。私に抗体

を作らせた植物は、やはりスギやシラカバ系ではなく、ナラ、カヤの類のよう

だ。どちらにしても警戒がおこたれない。…静かな場所である。人里から少し

離れただけなのに、空気の質が全く違う。まるで、音の伝達に慣れていない様

子である。…所長代理が女性なのは驚いたが、噂に聞いていた柴田連と、初

日に顔を合わせようとは思ってもいなかった。今一度、彼の資料を読み直そう。

：そして白井節という女性に関しても、ガンゼル症候群の疑いも少々。目の輝きは、軽い現実逃避を示している。：囚人たちの資料を、身分帳と呼ぶらしい。そして、収容番号の末尾がゼロの囚人たちをゼロ番囚と呼ぶ。死刑か無期に相当する重罪犯である。以上、すべて所長代理からの受け売り。……（窓に近づき）時折、桜の花びらが窓から紛れ込む。刑務所の、しかも壁の近くに、まさ郷田か樹木が植えられているとも思えない。するとこれは山桜なのだろうか？ 信小林 子からは、結局、何の連絡も無かった。しつかりと話す場を持ってぬま、この監守A 地にやっつけてしまったわけだ。彼女と僕のこれからの人生は……

錠前と扉のS.E. レコーダーを切り、ズボンのポケットに入れる星田。たとか言って……  
監守A 入る。

監守A 独房棟へお願いします。在監者が軽いテンカンの発作を起こし、  
星田 （机の白衣を着ながら）わかりました。伺います。

監守A …あの、先生ですよね？

星田 はい。

監守A あ、失礼しました。

星田 監守さん：ですよね？

監守A はい。寺田です。

星田 これはどうも、星田です。

監守A あ、どうも……

暫しの微妙な間。

監守A ……あ、急いで下さい。  
星田 はい、急ぎましょう。

急いで去る二人。舞台上の明かりが窓の外を残して、極めてゆっくりと  
溶暗。

出して、それを見ながら駒を並べている。やがて錠前と扉のS.E. や  
やあつて監守Aと郷田が入ってくる。

監守A 失礼します。672番を連れて参りました。

郷田 よろしくお願いします。

信小林 えっ？ あれ、僕だった？

監守A あ、やはり違いますか？ （郷田に）あなたやっぱり！

小林 何か？

監守A いえ、診察願は明日の午後になつてゐるんですが、特別に先生が許可され

郷田 ああ、いえ、私は……

小林 あ、そういうこと。

監守A どうも失礼しました。（連れ戻そうとする）

小林 いいですよ。置いてつて下さい。

監守A でも。

小林 もしかしたら星田君かもしれないし、ちょうど暇ですから。

郷田 ありがとうございます。

監守A 本当によろしいですか？

小林 ええ本当に……（自分の気楽すぎに気付く）ああ、でも…今後はあくまで

書類で対処してください。彼等のウソは巧みですから。

監守A はい。以後気を付けます。では、失礼します。

去る監守A。駒並べに戻る小林。

郷田 どうもありがとうございます、実は……  
小林 そっち側、手伝つて。

郷田 は？

小林 この写真通りに並べればいいから。

郷田 はあ……

【SCENE・2】窓の外の明かりが「春の午後」から「夏の  
夜」に変わる。やがて舞台上も溶明。夏の装いの小林医師が登場。手

には将棋のセットを持っている。本棚の片隅から、一枚の写真を取り  
小林 （並べ終えた自陣の駒を眺め）うくん。

郷田 (それに習って) う〜くん (パチン)  
小林 ……そうか、そうか、  
郷田 なるほど…… (パチン)  
小林 いや、君は考えなくていいから。  
郷田 ……ああ、はい。(パチン)  
小林 ……えっとお…  
郷田 (パチン)  
小林 (郷田の様子を何気無く見る)  
郷田 (棋士を気取ってパチン)  
小林 何? 郷田さん、指せるの?  
郷田 ……全然。  
小林 ああ、そう…。  
郷田 (パチン)  
小林 ……  
郷田 (パチン)  
小林 う〜くん…  
郷田 (パチン)  
小林 そうそう、こう受けたんだよね。  
郷田 (パチン)  
小林 ……  
郷田 (パチン)  
小林 ……駄目だよ郷田さん。  
郷田 えっ? (写真を見て) 間違ってます?  
小林 監守さんにウソついちゃ。  
郷田 ああ…あ、いえ、緊急の事態だったもんですから。  
小林 緊急事態ねえ…  
郷田 ええ、一刻も早くお知らせをと思って…実は…  
小林 また、マンドラゴラ栽培の話?  
郷田 えっ? なんて分かるんです?  
小林 まあまあ、先を続けて。  
郷田 はあ… (パチン)  
小林 ……  
郷田 (パチン)

小林 あれ? おつかしいなあ…  
郷田 (パチン)  
小林 俺、こんな所に桂あげたっけ  
郷田 さあ (パチン)  
小林 ちよつと見せて…  
郷田 どうぞ。(写真を渡し、パチン)  
小林 (すぐに返して) あってるなあ…  
郷田 (パチン)  
小林 まあ、いいか。この桂のおかげで、守りは圧倒的に優位だし。  
郷田 (パチン)

件のSE、やがて在監エリアから星田と白井。

星田 ……さあ、どうぞ…

星田に促されて部屋に入る白井。郷田は駒並べに必死。

白井 おじゃまいたします。  
星田 あれ? 何だ、郷田さんも指せるんですか?  
小林 いやいや、ちよつと手伝って…あれ、これから治療?  
星田 ええ、ああ、奥でやりますから。  
小林 そうじゃなくて、先生を待ってたんですよ。  
星田 えっ? ああ…明日じゃなかったですか?  
小林 ええっ? だって、昨日の夜だったでしょ、約束したの。  
星田 ああ、そうか。0時回っていたから、てつきり明日だと。  
小林 あ、回ってましたか0時。あちやちやちや。  
郷田 終わりました! ……ああ、星田先生。いつの間に…  
星田 ……どうも、ごくろうさん。  
郷田 ささ、どうぞ。(席を立つ)  
小林 ああ、いや…  
小林 せっかく並べてもらったんだし、せめて10手…や、5手だけやりましょ  
星田 ……うよ。  
星田 ……そうですね…じゃあ、白井さん、悪いけど、少し待ってもらえま

すか。

白井 はい。  
星田 じゃあ、ここにかけて。郷田さんも……どちらからでしたっけ？  
小林 先生ですよ。ほら、学会の方が面会に見えて……  
星田 ああ、そうでしたね、えっと……ん？  
小林 何か？

ゆつくりと、将棋盤を一八〇度回す星田。

小林 ……あ、ああ……どうりで、  
星田 僕はこの奇襲戦法には出ませんので……  
小林 いつになく堅い守りだと思った。  
郷田 ズルはいけませんよ小林先生。  
小林 そんな、郷田君、  
星田 じゃあ、まずは、これから……と（パチン）  
小林 ……う……ん。  
郷田 あの、先生。  
星田 え？ 僕ですか？  
郷田 実は、驚くべき実態が明らかになりました……  
星田 ああ、またマドラゴラの密売の話？  
郷田 え、何で分かるんです？  
星田 （少し笑って）……で、今度は何を？  
郷田 ……ええ、実はですねえ……  
岸野 失礼します。

いつしか一般エリアの通路に敬礼姿の岸野が立っている。慌てて、椅子から立ち上がる郷田、白井。星田、小林もゆつくり立つ。

小林 ……どうも。  
岸野 これは、お揃いで……遅くまでご苦労様です。  
小林 いや、その、くつろいでいただけで……  
岸野 くつろぎの場に、在監者同伴は困りますね。  
小林 はあ……

星田 いや、すぐ診察にはいりません。白井さんの許可もちゃんと……  
小林 僕が誘っちゃったんですよ、5手だけって。

それには答えず、将棋盤に近づく岸野。

岸野 ……相変わらず、守りが弱いですね小林先生。  
小林 え？ そうですか。  
岸野 それで、どれくらい時間はかかりそうですか。  
小林 いや、まだまだ中盤で……  
岸野 診察の話です。5手後の……  
小林 ああ……僕の方は……（郷田に目配せ）ものの10分で終わりますが……  
郷田 それはもう、スピーディーに！  
岸野 貴方が答えるべきではありません。  
郷田 はい。  
岸野 星田先生の方は？  
星田 何かまずいんでしょうか。  
岸野 えっ？  
星田 ああ、ですから、夜に診察すると。  
岸野 ……まあ、禁止事項ではありませんが、彼等はあくまで在監者ですから。消灯時刻を越えてなお自由な空間に身を置くこと自体、ある種の不公平を生じます。できる限り控えていただきたい。  
星田 それは分かりますが、書類にも書いた通り、彼女の場合、日中よりも夜間のほうが、はるかに安定するんです。私なりに治療の成果を考えて……  
岸野 それが困ると言っているのです。  
星田 どういうことでしょうか。  
岸野 ……ここは病院ではありません。あくまで拘置を目的にした施設の医務部なんです。  
星田 おっしゃる意味はわかりますが、我々の仕事は、刑罰を与えるものでも、それを軽減するものでもない。あなた方の任務とは独立した、医者と患者としての……  
岸野 本当にそれだけでしょうか。  
星田 は？  
岸野 （白井に近付きながら）……精神科の先生にとっては、とても関心のある環

境と伺っています。この独房棟という空間が、ヒトの精神に特殊な作用をもた小林  
らす。(白井の屑に触れ)治療という名目の中に、先生自身の研究欲、名譽欲  
星田 患者の前でそういう発言はご遠慮願いたい！

暫しの間。小林がパチンと駒を進める音が響く。

小林 (注目を感じて) : あ、これは失礼 :

白井 全部、私が悪いんです。私がいつまでも、こんな所で生きているから。

星田 白井さん :

白井 何度もお願ひしたんですよ、監守さんにも裁判の人にも。私なんていない  
方が、みんな楽しくやっていけるのにつて :

星田 : 彼女の症状は明らかに :

岸野 止めましょう。星田先生 : : : お互い、立場が違い過ぎます。

星田 : ええ : : : そうですね。

岸野 小林先生。

小林 はい。

岸野 5手を、3手に短縮して、早速治療に入ってください。私は自宅に戻りま  
すが、そうですね : : : 治療も30分を限度にお願いします。

小林 承知しました。

岸野 (通路に向かう足を止め) ああ、それと小林先生。

小林 はい。

岸野 何か手を打たないと、3手後に王手飛車やられますよ。  
小林 ええっ ?

岸野 (星田に) 今度ぜひ、一手おてあわせ願ひたいですね。

軽く敬礼して通路へ去る岸野。

小林 : : : 頑張りましたね、星田先生。

星田 いや、何か、大人げない所を :

郷田 かつこよかったですよ。はい。

星田 ああ、白井さん、すいませんでした。大丈夫ですか ?

白井 ええ、私は、全然。

どうします ? これ。  
ちよつと、そういう気分では :  
そうですね。じゃあ、恒例の証拠写真をと :

机の中から、デジタルカメラを取り出す小林。

星田 ああ、いいですよ、僕が一手戻しますから。

小林 だめだめ。僕も勤かしちゃったし、これで大手飛車を研究しておかなくち

や。

郷田 また、ズルするんでしょう、小林先生。

小林 そうじゃないだろ : (パチリ) : : : ズルしないように、だろ。

郷田 本当ですかねえ。

小林 ほんとほんと。それで、と、今日は : : : 8月19日と。

サインペンで日付を入れる小林。

小林 次は、星田先生の一手から、と。これでよし。

郷田 ああ、先生。記念に一枚取りましょうよ。

小林 ええっ。

星田 何の記念です ?

郷田 だから : : : 所長代理様に怒られた記念。

小林 なるほど、そりゃいいや。

星田 いや、でも :

小林 さあ、節ちゃんも入って。

星田 どうします ?

白井 入ります。私、写真って大好きなんです。

星田 ああ、そう。

小林 じゃあ、いくよ (パチリ)

郷田 では、今度は私が : : : :

小林 ああ、いいのいいの、僕は写真が大の苦手ですね。さてと、じゃあ、またお

目玉をくわないうちに、それぞれの仕事に戻りますか。

郷田 あの、私は何をしたら ?

小林 報告に来たんでしょ ? 緊急事態の。

郷田 ああ、そうです、そうです。実はこの目で動かぬ証拠を……

小林 はいはい、じゃあ、僕の部屋でゆつくりと……じゃあ、星田先生。

星田 ええ、後ほど……

しきりに話しかける郷田にうなずきつつ、去る小林。

星田 じゃあ、まあ、そこに座ってください。

白井 はい。

星田 少し明かり絞りますね（資料を見ながら）……最近はどうですか？

白井 眠れますか？

星田 ええ……

星田 夢日記のほうはどうです？

白井 はい、先生に言われた通り、なるべく付けるようにしています。でも、私星田の場合、詳しい所は思い出せないことが多くて……

星田 そうですね。でも、それは僕たちも同じです。白井さんだけじゃない。

白井 これ、この1週間のものなんです……

星田 どれ、ちよつと拝見します。

白井 よかったら、先生が持っていてください。

星田 いいんですか？

白井 まだどこかにやっつけてしまいそうで……

星田 （メモ書きを見ながら）……これは……

白井 何でしょう？

星田 ああ、いや……ねえ、白井さん、この絵は何です？

白井 ああ、それは、マンドラゴラという植物です。最近、夢によく登場するんです。

星田 ……これが、マンドラゴラですか？ ……僕には、普通の樹木に見えるけど……

白井 ねえ、白井さん、この絵、本当に夢の中で見たんですよね？

星田 と、言いますと？

白井 うくん、その……例えば誰かから話として聞いたとか……

星田 いいえ……

白井 そうですか……

星田 あの、何か？

星田 あ、いえ……わかりました。この前預かったのもあるから、僕のほうで整理

しておきます。

白井 お願いします。

星田 ……で、裁判の方は、どうですか？

白井 ええ……来月、最高裁だつて聞きました。その前に、また病院で検査があるらしいです。

星田 なるほど。

白井 でも、もう私いいんです。そんなにいろいろしてもらっても……

星田 また、そういうことを……これは、先日も尋ねましたが……あなたは本当に、

白井 誰も殺してはいないんでしょう？

星田 ええ、それは本当です。そんな怖いこと、神様に誓つて……

星田 だつたらなぜ、そんな事言うんです。早く死にたいみたいな。

白井 先生も疑つてるんですか？ 私の事。

星田 先生も疑つてるんですか？ 私の事。

てきました。白井さんの小さかった頃のこと、いろいろ聞きましたよ。

白井 先生、何か怖い顔してます。

星田 どうかしら、先生は恥づかしいです。そうそうアルバムなんか見せてもらったけど、お母さんの話しでは……

白井 私、何も知りません。コウさんはコウさんです。前畑さんは前畑さんです。木村さんは木村さんで……コウさんはいつも私をきれいに撮ってくれて……コウさんは……コウさんは……

星田 ……

急に暴れ出す白井。星田、彼女に駆け寄りながら、

白井 先生？

星田 監守さん、お願いします！

星田 ……ほら、皆で記念撮影したとき。

白井 ……ああ、ええ、はい。

星田 お母さんは僕にこう言ったんですよ。あの子は、昔から写真嫌いで、モノ

監守A、急ぎ入室し白井を取り押さえる。やがて騒ぎに気がついた小林も駆け込み手伝う。

白井 ……ああ、ええ……そうです。

星田 ……ああ、ええ……そうですか？

星田 すいませんが、そのまま……

白井 ……それは……

星田 ……ああ、そうか……そうです。コウさんのアトリエに通い出してからです。

星田、机の引き出しから注射器を取り出す。

星田 ……アトリエですか。（身分帳を開く）

白井 コウさんやめて！私をそんな目で見ないで……

白井 ……ええ、そうです。コウさんは、いつも私をきれいに撮って下さって、それ

星田 落ち着いて白井さん。僕ですよ。少し……休みましょう。

星田 ……から写真が大好きになったんです。

小林 ……ええ、寺田さん。岸野さんは？

星田 ……それは、いつの話ですか？

監守A ……ああ、所長代理なら、先ほど帰宅されました。

白井 ……ここに……2カ月前くらい前だと……

小林 ……ふう、やれやれ。

星田 ……2カ月前……そのコウさんって人、名字は覚えてますか？

星田 ……すいません小林先生。ちょっと不注意で……

白井 ……えっと……いえ、コウさんはコウさんです。カメラマンの……

小林 ……いやいや、不幸中の幸いですな。

星田 ……ねえ、白井さん、今の話、弁護士さんとか、警察の人に話したことありま

監守A ……それは……私に口をつぐめという事ですか？

白井 ……すか？

小林 ……や、そうじゃないけど……

白井 ……いいえ、だって、誰もコウさんのことなんか聞かないし……

星田 ……ちゃんと僕から報告します。先生にはご迷惑をかけませんから。

星田 ……どうかしら、先生？

小林 ……僕はいいが……ま、将棋の相手をするぐらいは覚悟しておいた方がいいでしょうね。

白井 ……どうかしら、先生？

星田 ……はあ……

星田 ……ねえ、白井さん、さつき貴方は、前畑さんが好きだった、木村さんも好

星田 ……はあ……

白井 ……きだった、と言いました。その後、もう一人、誰かの名前を告げようとした……

やがて薬が利き、静かになる白井。小林のうなずきを見て、立ち上が

白井 ……先生、何か怖い顔してます。

らせ、白井を連れ去ろうとする監守A。

星田 ……とつても大事なことです白井さん。そのもう一人が、コウさんだった

星田 …あの、ここで休ませてはまずいですか？

監守 A いえ。…休養は房内でも同じですから。それに消灯はすでに終わっていますので…

星田 …わかりました。そうして下さい。

監守 A (歩を緩め)…時々、覗くようにしますから。

星田 ええ、よろしくお願ひします。

監守 A (扉の外へ) 聖さん。手を貸して下さい。

白井を連れて去る監守 A。

小林 (散乱した将棋の駒を拾いながら) 写真に残しておいてよかったですえ。

星田 えっ？…ああ…(手伝いながら)…どうもすいません。

小林 珍しいですね。最近はその彼女、おとなしかったのに。

星田 ええ…ねえ、先生…彼女の容疑って、男性2人の殺害でしたよね。

小林 うん、そうね。状況証拠も物証も完全に揃っている。あれでは弁護士さん

も辛いよね。ただ白井本人の自供はなく、検察の動機付けもいささか強引で…小林  
何より彼女の犯行否定の証言が、ポリグラフに一切もひっかからないから後は

精神鑑定の解釈次第で、つて…その辺は先生の方が…え、何か、あつたの？

星田 ええ…実はもう一人の男性の名前が出てきました…

小林 ええっ？ それは何、関係者じゃなくて？

星田 まだ詳しく調べないと何とも言えませんが、少なくとも身分帳には記載が  
なく、彼女も誰にも話してないって…

小林 じゃあ、もしかして…事件の真相に関わるような？

星田 ええ、精神的に弱い彼女を、誰かが陰からつてケースも…

小林 なるほど…

星田 知り合いが地検にいたので、明日にでも相談してみます。

小林 うくん、いいなあ、ドラマチックで。内科じゃあ、そうは話が展開しない

小林 物の。何十年やっても。

星田 そんなあ…あ、よかったですか？ 郷田さん。

小林 ああ、さんざんマンドラゴラの報告をしたら、パタンと眠ってしまいました  
た。あいつ上告審が近いでしょ。彼なりの逃避行為なのね。

星田 なるほど。ああ、そう言えば、彼女もマンドラゴラについて、喋ってまし

た。

小林 彼女って、白井さん？

星田 ええ、治療の一貫で夢の記録を取らせているんですが、その中の絵を見せ  
て、これがマンドラゴラだって…

小林 へえ…どうせまた郷田あたりが、噂を流してるんでしょう。

星田 ええ、恐らくは…ただ、彼女の絵が、どう見ても桜の樹のようでした

小林 どうもあれに引かかってしまつて。

小林 …何がですか？

星田 え？ いや、気掛かりだと…

小林 えっ？ ああ、そうかそうか、いや失礼…

星田 まさか、この拘留所内に、そんな樹木はないですよねえ。

小林 …？まさか。ここは狭いですからね。そんな外界への道を作るような  
のは…

星田 …どうかしましたか？ 何か失礼な事を…

小林 いやいや。それより、今度、いつやりますか？ これ。

星田 そうですね。明日は戻れないかもしれないし…金曜の夜でどうです？

小林 僕の方はいつでも。じゃあ、ここに。

机の引き出しに、将棋盤を片付ける小林。

小林 ああ、そうそう、例の大物ですがね。

星田 柴田連ですか。

小林 うん。先生の個人的意見はどちらです？

星田 といいますと。

小林 ほら、またマスコミが騒いでるでしょ。冤罪を立証する特集番組がどう  
つて。

星田 ええ。来てましたね撮影隊が。施設とか塀とか。

小林 ああいうのは何ですね。ここまで微妙なことになると、本当の真実  
ってやつは、本人しか知らないみたいなの、あるでしょ。

星田 ああ、そうですね。

小林 あれですよ。付き合っていた彼女の、生理が遅れてる感じ。

星田 ええっ？ 何ですそれ？

小林 ほら、経験ありません？ 学生の頃とかで、ガキができてるかどうかドキ

ドキしちゃったこと。

星田 ああ。

小林 あの時って、実はもう結果は出てるわけでしょ。神様はとっくの昔にシロから黒か判っている。だけど、医者にもいけない若者たちは毎日をドキドキしながら過ごすわけです。時には別れ話にまで発展しながらね。

星田 じゃあ、柴田連さんは、その神様にあたるわけですね。

小林 そう。だってあの人しか本当の所は知らないわけだ。そして、世間の動向を静かに観察している。自分の命を懸けて。

星田 なるほど、我々は、そんな人物と日々を過ごしている…と。

星田 まあ、岸野所長代理が聞いたら、失神しそうな話だけだ。

小林 確かに。

星田 でね、その神様の深い心理に、面と向かって座っている先生は、どんな感想を持つてるのかなあって。

星田 …僕はその辺の関心は、なるべく捨てるようにしているから…

小林 まあ、そうだろうけど…

突然、遠くからサイレン。窓外の風景に照明が蠢く。

星田 …なんででしょう？

小林 ……まさか！ 郷田の奴…

星田 えっ？

自分の部屋へ駆け出す小林。追う星田。やがて舞台上が溶暗。

【SCENE・3】窓外の照明が「夏の夜」からゆっくり「秋の午

後」に。舞台上がゆっくりと溶明。扉のSEあって、こざっぱりし、

鞆を抱えた平林と、監守Aが入ってくる。2人、部屋の入り口で、しばらく立ったまま。

監守A やはり、まだ戻られてませんね。

平林 ええ。

暫しの間。やがて身体をゆるする平林。

平林 座りませんか？

監守A (少し迷いの間) そうしましょう。

おもむろに座る2人。手下げ鞆から、ノートを取り出す。

平林 じゃあ、さっきの続きから聞いてくれますか？

監守A いいですよ。

平林 おかしな所、ちゃんと教えて下さいね。

監守A 私にできる範囲なら。

平林 (ノートを見ながら)……どうやらその植物は、私達よりずっと昔の、王国や、宮廷でも使われていたらしい。飲ませたり、皮膚にぬったりして、毒薬に使うのはもちろん、上手に使えば薬になるし、女をHにさせる薬品として

も用いられ…

監守A ストップ。

平林 何か？

監守A 女をHにさせる、っていうのは、少しいけません。

平林 はあ…

監守A その部分は…そうですね…婦人の欲情をそそる、に直しましょう。

平林 (ペンで書きながら) フジンのヨクジョウをそそる…と。

監守A 続けて。

平林 ええっと…ヨクジョウをそそる薬品としても用いられ、世界史の裏のいろんな部分で、活躍していたらしい。私はチンピラ上がりだからよくは知らないが…

監守A ストップ。

平林 今度は何か？

監守A チンピラ上がりが良いです。そこは…社会不適合者がいいですよ。

平林

何ですそれ？

監守A 続けて。

平林 はあ……よくは知らないが、シェイクスピアとか機関車トーマスとかいう偉い人も、よく好んで題材に使っていたらしい。これらの話は全て、夢の中に出てくる博士に教えてもらった。博士の話ではこのマンドラゴラという植物を、

不用意に地中からひっこ抜くと、すさまじい女の悲鳴をあげる。その声を聞いて平林 所長代理です。たら、みんな死んでしまうという。でも私は思う。あんな太いものをどうやっ平林 ああ、そうか、じゃあ代理様。て抜くのだろう。根っこを引っ張ったのに、なぜ女の音がするのだろう。根と平林 プツ。

監守 A ……

平林 やっぱ、変ですか？ このあたり：

監守 A (首を横に振り、バッチグーサインを出す)

平林 おおお！

扉の S E。やがて岸野が、ブレザーのボタンをとめながら入室。敬礼  
で迎える監守 A。立つ平林。

平林 だって、お数珠が……

監守 A お帰りなさい。お疲れ様でした。

岸野 (首で答えて) あら、平林さん。

平林 あ、どうも……

監守 A どうしても、星田先生にご挨拶をつて：何か、頼まれた記録も自分で渡岸野 ……これは、私としたことが……

岸野 したいからと……

岸野 ああ：そう。彼は、まだみたいね。

監守 A あれ？ ご一緒じゃなかったんですか？

岸野 ……ええ：向こうではね。その：何か買いたい本があるとか言つて少し遅く星田 ……あ……どうも……

監守 A じゃあ、やはり預かりましょう。

平林 (さっと資料を抱える)

岸野 あ、でも、もうじきに来るはずだから……

監守 A ……はあ……

岸野 (平林に) いよいよですな平林さん。

平林 はい、いろいろお世話になりました。

岸野 やつと後遺症も消えたんだから、あちらでも頑張るのよ。

平林 はい。

岸野 刑期も短いだし、貴方なら……：模範囚の最高の位にね、独歩というのが平林 ……

星田 ……(白衣を着ながら) え、どうかしました？

岸野 いえ！ ……今日で栃木へ移る彼女が、一言と……

星田 ああ、そうか。

平林 これ、先生に言われた例の資料です。

星田 ああ、ありがとう。

平林 絵の方は、ヘタクソで、全然自信ないんですが……

星田 いえいえ結構です。そうですか、向こうでも頑張つて下さいね。

平林 やつと後遺症も消えたんです。2度と駄目ですよ、葉だけは。 ……じゃあ、どちら様も、お元気で……

星田 平林さんも。

平林 (扉に向かう足を止め) あ、そうだ、星田先生。

星田 はい。

平林 資料の中の、チンピラ上がり直しを直し忘れました。なんでしたっけ？

監守 A 社会不適合者です。

平林 ああ、そう。それに直しといて下さい。

星田 は？

所長代理の目を気にして、さつさと去らせる監守 A。

星田 : 何です、今の？

岸野 さあ、私にも…。

星田がテーブルに置いた紙袋を見る岸野。

岸野 本当に、寄ったんですね、本屋。

星田 ああ、いや、雑誌ですよ。ロビーの売店で買いました。

岸野 なにか、その…気を遣わせてすいません。

星田 いえいえ、それよりお昼、ごちそうさまでした。一人じやなかあんな岸野  
おしやれな店には…

岸野 星田先生。

星田 はい。

岸野 所内で、そういう発言は、極力控えていただきたい。

星田 ああ、はい。…あ、でも、そもそもは所内の貴方の部屋で…

岸野 だから、そういう発言自体が困るのです。

星田 あ、はい。

岸野 そもそも、将棋というのは、日本古来の、奥床しい遊戯です。

星田 はい。

岸野 それをアルコール片手に誘った貴方は、その…不謹慎です。

星田 (少し笑って) はい。

岸野 私はどうせ、仕事しか知らない、いわゆる、その…カタブツな女ですし星田  
先生のような、いわゆる…

監守 A 小林先生はおみえでしょうか？

SEなく監守 Aが入る。

岸野 寺田さん！

監守 A はい…

岸野 ノックをしてから入室するように。

監守 A あ、はい、すいません。…あ、でも…

岸野 何です？

監守 A ノックは扉の向こうですかね？ それとも…

脇の飾り扉をコツコツ叩く監守 A。

岸野 : ノックと言う表現は不適切でした。ただ…寺田さんあなた、奥の扉は閉

めました？ 施錠は？

監守 A もちろんです。ちよつとしたコツがありましてね。ほとんど無音で入る

方法を先日…

岸野 寺田さん！

監守 A はい。

岸野 : 先生方に失礼です。扉の音はノック代わり。ちゃんと…何です？…威厳

を持つて開け閉めするよう心がけて下さい。

監守 A 承知しました。

星田 (笑いを堪えている)

岸野 : 何ですか？

監守 A はあ、120番の診察時間が近付いてますので確認を…

岸野 柴田連ですね…私が承ります。

監守 A はあ…あ、はい。よろしくお願ひします。

敬礼して去る監守 A。豪快にSEが鳴る。

岸野 : という具合に、油断は禁物です。

星田 なるほど…

岸野 古くからも障子に目あり、襖に耳ありと…

星田 あ、岸野さん…

岸野 はい。

星田 一つだけ忠告なんですが：

岸野 ……何でしょう？

星田 もう少し普通に振る舞われた方が、かえって自然だと：

岸野 ……はあ：確かに、そうですね。

星田 いや、まあ、あまり気にせずに：

岸野 はい。…先ほど、本のことを聞いたのは、貴方が今日は戻られないつもり岸野

星田 かしら思っていたからです。

岸野 えっ？

星田 ……2時半でしたよね、お客様が見えるのは…。

岸野 ああ：そうですか、やはり所長代理は知ってましたか。

星田 ……ええ：まあ。

岸野 多分、離婚届を持ってくるだけです。僕は郵送でいいといったんだが、一

星田 度ここも見ておきたいって言って…

岸野 お子さんは？

星田 女の子が一人。彼女が引き取ります。

岸野 そう…：ごめんなさいね。立ち言ったことを…

星田 いえ…：また、週末にでも、一手お手合わせ願います？

岸野 アルコール抜きですか？

星田 どちらでも。

岸野 奥の部屋の中で、何かが倒れたような音がする。

岸野 ……誰です！

岸野 扉が開いて、白衣姿に枕を持った小林が、敬礼姿で立つ。

星田 ……小林さん。

小林 はっ！ 昼食後、急激な睡魔に襲われ、ここで仮眠を取っておりました。

岸野 たった今、ベッドから落ちて覚醒し、ゆえに何も…：あ、いや、少しねぼけて

小林 ……まして、いや、いや、とんだ失礼を。(去ろうとする)

岸野 小林先生！

小林 はい！

岸野 それで、どこから聞いていたのです？

小林 将棋のくんだりです！ ああ、もちろん2回目の…：あ！

星田 ……全部じゃないですか？

小林 いや、その…：出るに出入れなくなつて…

岸野 星田先生。

星田 はい。

岸野 お客さん、ロビーでお待ちになったほうがいいのでは…

星田 ……ああ、そうですね。少し早いけど、そうします。

小林 ……じゃあ、僕も柴田との面談の用意を…：…

岸野の顔を伺う小林。ゆっくり首を横に振る岸野。

小林 ……まだ、時間があるか？

星田 (微笑みながら) では。

岸野 先生。ネクタイ。

星田 ああ、そうですね、ありがとうございます。

岸野 黒ネクタイを外しつつ去る星田。椅子に座る岸野。やむをえず、その

対面に腰を降ろす小林。

岸野 ……最初にも、誤解のないように言っておきます。盗み聞きをそのまま吹聴さ

小林 ……しても困りますから。

岸野 そんな人聞きの悪い。

小林 ……いえ、先生は油断がなりません。

岸野 ……はあ…

岸野 ……最初にはっきり言っておきますが、私と星田先生は、あなたが想像されて

小林 ……いるような…

岸野 ……まあ、いいじゃないですか。

小林 ……は？

岸野 ……難しく考えてみた所で、所詮は男と女でしょ。

小林 ……ですから、そういうハレンチな！

岸野 ……じゃあ、やつぱ事細かに聞いたほうがいいですか？

小林 ……星田先生とあなたの

純粋な関係を…

岸野 あ、いえ…そういうわけでは…

小林 で？ どうでした？ 法要は。

岸野 ですから、そういう興味本位な話題を…

小林 いやいや、郷田の方ですよ。四十九日の法要。

岸野 え、…ああ！

小林 意外に面白い人ですねえ、岸野さんって。

岸野 ああ、ええ、その…ま、身内だけでひっそりと…

小林 なるほど…ご苦労様でした…本来なら、僕が顔出すべきところを

岸野 ああ、いえ。遺族の感情も考えて、先生に終始遠慮してもらったのは私達小林

ですし…

小林 ガキがいたでしょう？ 小学生の。

岸野 はい。

小林 よく彼が話してました。自分とは違って天才だから、きつと大物になると

か言ってるね…そのくせ、面会とかで来ると、郷田の方が照れちゃって、全然

話できないんですよ。あのバカ…

岸野 小林先生…

小林 …ま、でも、郷田も喜んでますよ。四十九日の法要が、めでたくデートに

活用されてりや…

岸野 ですからそういう発言は…

扉のS.E。 監守服を着た監守Bが登場。

監守B 失礼します。

小林 あれ？ 南森さんじゃない。久しぶり。

岸野 今日こちらに着いたんです。

監守B 南森優子。首都圏大震災のボランティアから帰還し、明日より戦線に復

帰します。今日はほんのご挨拶。

小林 あ、そうなの。てっきり辞めたのかと思ってた。

監守B そんなあ。

岸野 ちゃんと所内報で紹介しましたよ。

監守B 失礼します。(椅子に座る)

小林 …しかし何だね。去る者あれば、戻る者あり…うまく出来る。

監守B ああ…何かいろいろあったようで…

小林 うん、平林君は栃木に行ったし、何より郷田がね。

監守B 脱走中の事故だと聞きました。

岸野 南森さん、その話は…

小林 いや、いいいいよ。僕の監視ミスなのは間違いないんだから。

監守B あ…そうなんですか？ すいません。

小林 だからいいって。あいつも上告が敗戦濃厚で、焦ってたんだね。最後まで

すっかりだまされた。

岸野 いえ、あくまで本人が導き出した事故ですから。

小林 ほら、トイレの窓の鉄格子、あれ外からだと意外に簡単にもげてさあ。あ

いつ、力は人一倍だったから。

岸野 小林先生…

小林 それを5つ6つ重ねてね。扉のカドを利用し上まで登ったまではよかった

んだけど…

監守B …なるほど。

小林 せめてね。扉のこちら側に落ちてくれりや、騒ぎも小さくてすんだのに。

監守B そんなあ…

岸野 ああ、先生はね、せめてこちら側なら、アスファルトじゃなく、怪我です

んだらうって意味を、先生なりの言葉で…

監守B はあ…

小林 ま、人間、医者世話になるなら、せめて命がある内だね。

監守B は？

岸野 ああ、だから、先生は、そもそも、わざと毒舌を…

小林 医者だって、死体相手じゃ、冷たいものですよ。やっぱり。

岸野 …死後硬直ってご存じ？ 先生はそれを…

小林 何を解説してるんですか？ 貴方は…それも的外れな…

監守B え…外れてました？ 私。

監守B まあまあ。

小林 …いやあ、岸野さん。貴女がそんなに親しみやすい人とは…あ、それ

とも…やはり人を優しくするんでしょうか。ああいうことがあると。

監守B 何かあったんですか？

岸野 (立ち上がって) 小林先生！

小林 だから地震災害だよ。行ってたんでしょ？ ボランティア。

監守B ああ、なんだ。

小林 (岸野を見て) 何か？

岸野 ……いえ。(おもむろに座る)

小林 なったでしょ？ 優しい気持ちに？

岸野 ええ…2万円、送りました。

小林 ほら。(南森に) じゃあ、ま、そつちの話は後日ゆつくりと承ろうか。

岸野 B ええ、私の不在中の情報と交換ってことで…

小林 おお、あるある！ とっておきが！

岸野 B じゃあ、岸野代行、今日はこの辺で、

岸野 あ……はい。ご苦労さん。明日からの勤務に関しては…

扉のS.E。「失礼します」の声に続き、監守Aが柴田を連れて入室する。

監守A 120番を連れてまいりました。

柴田 ……よろしくお願ひします。

小林 こちらこそ…じゃあ、岸野代行、私はこれで。

岸野 小林先生、後ほどお話が、

小林 そうですかあ？……時間が取ればいいですがね……ああ、将棋のお誘いならば遠慮しますよ。レベルが……違い過ぎます。さ、じゃあ、あちらへ。

通路へ消える小林と柴田。控え目にヒソヒソやっていた監守A、B、岸野の視線に敬礼して、足早に去る。一人残された岸野。しばし椅子柴田に座り溜め息。やがて何かを物色し始め、灰皿を見つめる。自分の煙草を取りだし、火を付ける。一般通路から人影。信子が登場。

信子 ……あの……

岸野 (急いで火を消して、立ち上がり) ……はい。

信子 あ、あの……医務部というのは、こちらでしょうか？

岸野 はい、そうですが……失礼ですが……

信子 星田と申します。実は…

岸野 じゃあ、星田先生の……いつもお世話になっております。

信子 いえ、こちらこそ。

岸野 岸野と申します。

信子 あ、じゃあ、貴方が…

岸野 はい。この所長代理を勤めており……えっ？……

信子 (かすかに微笑んで) お役目ご苦労様です。

岸野 あ……はい。……いつも星田先生には、無理な勤務をお願いしてばかりで…先生にはお合ひできませんでしたか？ 確かロビーで待っていると…

信子 いえ…

岸野 じゃあ、呼びましょう。しばらくこちらで…

信子 いいんです

岸野 えっ？

信子 ……このまま帰ります。

岸野 (テーブルに封筒を置き) これを……彼に手渡してくださいませ。

信子 ……星田さん、貴女……

上品に礼をして通路より去る信子。厳粛なモノを感じ、ついつい自分も頭を下げる岸野。少し迷いながらも封筒を手にする岸野。やがて扉への通路へ去る。しばし無人の舞台。やがて一般通路から、ゆつくり柴田がやってくる。遅れて小林。

小林 ……いやいや、重ね重ね申し訳ない。私のうっかりで、また余計なご足労を

柴田 かけてしまいましたね。丸1週間間違えて……本当に申し訳ない…

小林 ……いえ…

柴田 (テーブルを見て) あれ？……誰だよ灰皿出っばなしで、また代理様に見つかると、こつちがお目玉なんだから……

小林 あの先生。

柴田 まだまだいるんだよね。シケモクをかつぱらつてく連中が、この間も掃除の運動中に…

小林 先生。

柴田 はい？

小林 ……はつきりおっしゃって下さい。

柴田 え？

小林 何か、話があつたんじゃないんですか？ 私に。

小林 いや、別に：

柴田 とぼけなくてもいいですよ先生。先生はわざと間違えて、私を呼び出した柴田。そしてさつき、2回言い出そうとして、やはり2回止めました。

小林 連さん：あんた。

柴田 ま、無理にとは言わんですが。

小林 連さん……

柴田 ……いや、ワシの勘違いでした。監守さん呼びましょう。

小林 待つてくれ連さん……ちよつと待つてくれ。

明らかに、ある種の迷いを引きずりながら、通路の奥の無人を確認する小林。柴田の顔をじっくり見つめ、床に頭を付ける。

柴田 ……先生……

柴田 ……先生？

小林 連さん！：見抜かれちゃったなら、もう、こうするしかない。

柴田 先生：よして下さい。頭を上げて下さい。

小林 いいや、もう、あんたに頼むしかないんだよ、俺は。

柴田 ……先生：そりゃ、フェアじゃないですよ。何がなんだか知らないが……これ柴田では、話も聞けない。

小林 金がいるんだよ。まとまった金が……早急な話じゃないが、連さん、あんたに頼むしか、もう他に方法がない！

柴田 ……フ……ハハ……どうしちまったんです先生……あまりに唐突な……それこそ、柴田

おかど違いつて奴でしょう、先生。

小林 ……

柴田 先生には、本当にお世話になりました。私の方は、いつお迎えが来ても不思議ない身の上。先生のためなら、私は何だつて惜しまず協力するつもりです

小林 連さん……

柴田 この17年間、私の生活に最も縁遠かったモノですよ、先生。

小林 だからこそ金になるんだよ、連さん。17年間、ここにただただ座り続け柴田 たあんただからこそ。

柴田 ……どういふことですか？

小林 あんたの言葉が欲しい。

柴田 言葉？……

小林 うん。

柴田 ! 小林さん、じゃあ、あんた……

小林 知り合いに出版関係の人間がいる。あんたの最後の肉声を複製すれば、大きなマーケットが動く。

柴田 ……小林先生……

小林 ……ちっぼけでしょう。自分でもあきれ返ってるんだ。ここまで下がるとはねえ……いやあ、実に小さい。

柴田 ……先生……

小林 そもそも、理不尽な願いごとです。間違つて、連さんが承諾してくれても、

僕のほうは、それに見合う何もしてあげられない。……こうして、頭を下げる他に、何もできない。

柴田 ……先生……

しばしの間。ゆつくり窓へ視線を送る柴田。いつからか遠くでクラシック曲が流れている。

柴田 ショパンですなあ。私はこの、午後のラジオが大嫌いだった。時間になると勝手に流れ、曲の途中でプツリ切れる。耳に流れるモノを人は遮断できませんから……でも、最近は楽しみにしています。

小林 連さん……

柴田 人は少しづつ年を食います。屏の中においても、檻の外においても、死刑囚でも、サラリーマンでも、絵書きでも、ねえ先生。

小林 連さん……

しばしの間。

柴田 2つだけ、条件があります。

小林 えっ？……じゃあ……

柴田 録音は、ワシの死刑執行が決まったあとに頼みます。それと……

小林 じゃあ、いいのかい？ 本当に……

柴田 やっぱ、世間に出すのは、ワシが……いなくなつてからにしてもらえんだろ

うか？

小林 あ、ああ、もちろんだよ、連さん。あんたの名誉は絶対守る。決して迷惑

はかけない。ほんの2〜3分、僕が話をきくだけだし、もちろん話の内容も、こちらからは何も強制しないように……

柴田 その辺は、全てお任せしますから……

小林 あ、ああ……いや、ありがとう、連さん。細かいことは……

通路から足音。星田が資料を見ながら入室する。

小林 星田先生……

星田 ああ先生、ちようど良かったコレを……あ、これは失礼。

小林 ああ……こつちも今終わったところだから……

星田 いや、どうもすいません。

柴田 珍しいですね。

星田 えっ？

柴田 星田先生でも夢中になることがあるんだなって……

星田 柴田さん……

柴田 てつきりそういう姿は見せない先生かと……

星田 ああ、いや……

柴田 じゃあ、先生、私はこれで……

小林 ああ、そうですね。じゃあ……また、よろしく（インターフォンに） 120  
番お願いします。

扉のS.E。監守Aが扉を開け、柴田を引率して去る。

星田 ほんとすいませんでした。

小林 ああ、雑談してただけだから……ってあれ？

星田 何です？

小林 あなた、奥さんと会ってたんじゃなかったの？

星田 ああ、いや、随分待ったんですが、来なかったんですよ。

小林 ええっ？ じゃあ待ち惚け？

星田 ええ、まあ。昔から、わがままで気紛れな奴でしたから……

小林 なるほど。

星田 それよりこれ……ロビーで待ちながら読んでいたんですが……（資料を見せ  
て）平林さんに残してもらった記録でして……

小林 あ、また出ましたか……

星田 郷田さん、白井さん、それにY棟、F棟の3人を含め、彼女で6人目です。

それに（ページを先に）……

小林 こちらも桜のさし絵付きか……

星田 これまでの6人は、いずれも入所から2年以上過ぎた、いわゆるベテラン

組ばかりです。最近の入所者には一切見られない……

小林 マンドラゴラと桜ねえ……柴田氏とかは？

星田 いや、マンドラゴラの知識すらありません。ただ単に入所が長いだけでも

ないよう……

小林 なるほど……

星田の携帯電話が鳴る。

星田 あ、ちよつと失礼……ああ、どうも、地検の……いえ、こちらこそ……兄がい

つもお世話になってます……ああ、ええ、白井節ですね。本当、お忙しい所す

いません、何か興味本意でアマチュアが……え、大手柄ですか？……はあ……あ

じゃあつまり実在するんですね、彼女のいうコウさんという人物が……ええ、

そうですね？ 画家志望で……え……で、その吉本幸治なる人物は何て言ってる

んですか？ 白井さんに関して……え、無理……どういいう意味ですか？ え……

まさか……じゃあ……ああ、すいません……また掛け直します……

思わず携帯電話を切る星田。

小林 どうしました？ 先生？ 地検からだったんでしょ？

星田 ええ……僕は飛んでもないものを引きずりだしてしまいました。

小林 でも、お手柄だつて……例のコウさんって人物が何か？

星田 白骨死体で見つかったそうです……

小林 えっ？

星田 コウさんってのは、彼女が殺害した3人目の人物だったんです。そして白

井さんの犯行を示す物的証拠が、今まで以上に揃っているらしい……

小林 そんな……

星田 彼女を救えればと思つてしたことが……  
小林 ……死刑確定……ですか。

星田 小林先生：

小林 …でも、でもですよ、星田さん。彼女の否認はポリグラフにも掛からない監守A  
んでしょ？ 今度の3人目だって、先生とのカウンセリングで初めて：

星田 それが彼女の病気なんです。その可能性に、僕も実はうすうす気付いてい  
ました。逆にこれで…それが確定されてしまった：

小林 どういう事です？

星田 彼女は…忘れるんです。自分を少しでも不幸にする記憶を、その部分だけ  
きれいさっぱり忘れる。悪意の微塵もなく忘れる能力、もしくはは無意識のシス  
テムを脳が持ってしまったっているんです。

小林 ああ、何かの文献で読んだような：

星田 小林先生…僕は、それでも彼女を治療するべきでしょうか？

小林 治療って…：…そうか…彼女が治れば、彼女は全てを思い出し…今までの自  
供の不透明性も…：

白衣を脱いで上手の壁に掛ける星田。

小林 星田先生？

星田 すいませんが先生…早退します。（足早に通路へ）

小林 ああ、はい…あ、でも先生…：

追うのも止め、思わずテーブルに拳を当てる小林。その拳の感覚から、  
改めて自分を見つめるように拳をじっと見る。やがて横の灰皿に目を  
移し、長目のシケモクを手に取るが灰皿に戻す。

小林 （インターフォンに）寺田さん、近くにいます？

監守A （SE後に登場し）はい。なんでしょう。

小林 ねえ、岸野代行、部屋にいる？

監守A ええ、多分。

小林 悪いけどちよつと呼んできてきてくれないかなあ…

監守A はい。えっと、ココへですよねえ。

小林 うん…あ、やっぱ僕が行くか…

監守A …どうしましょう？

小林 うん、やっぱ僕が出向くよ。で、悪いんだけどさあ、それどこか隠しとい

て。

監守A ああ、灰皿ですか？  
小林 （去りながら）またトラブルの元だから…：

見送って「…ったく…」の表情で部屋に入る監守A。じっと灰皿を眺  
める。長目のシケモクを見つけ、机の引き出しからライターも見つけ、  
火を付け、すぐむせて消す。どうやら興味本意だったらしい。別の机  
の引き出しに灰皿を隠す。少しの間、何か一つ二つ傍若無人な振る舞  
いをし、そんな自分を嫌悪し、やがて大扉側へ去る。じわりと舞台前  
が溶暗。

#### 【SCENE・4】

窓外の様子が「秋の午後」から「冬の夜」  
に時間をかけて変化する。雪もチラついていて。やがて舞台中も溶明。  
通路の蛍光灯がバカパカしている。しばらくして小林が小さめのダン  
ボールを頭にかぶって一般通路から登場。鼻唄はシャンソン系。テー  
ブルに座り、ぼんやりした後、ダンボールを脱ぎ、タバコを取り出し  
火を付ける。蛍光灯を眺めながら、一口ふかす。灰皿を捜すが、前の  
シーンに監守Aが隠した引き出しには見つからず、全然違った場所か  
ら、全く同じ灰皿を取り出す。テーブルに戻り、またひとふかし。煙  
草を消す。やがて本棚から「自分のモノ」を段ボールに詰める。本棚  
の星田が持ってきた「置き物」に目が止まり、少し見つめるが、これ  
も段ボールへ入れてしまう。鼻唄のまま、通路を去る。暫し無人の間  
再び通路から小林。手にウイスキーの小瓶と星田のICレコーダー。  
テーブルに座り、右にレコーダー類、左にウイスキーと、丁寧に置く。  
少し考えてウイスキーを手にし、グビツとやる。もう一度グビツ。レ  
コーダーを手にし、基本操作を確かめてテーブルに置く。ウイスキー  
をグビリ。扉のSE。

監守Bの声 失礼します。

小林 （慌てず小瓶を白衣に隠して）はい、どうぞ。

大扉側の通路から柴田を連れて入室する監守B。

監守 B (入室し) 120番を連れてきました。

小林 はい。ご苦労さん。

監守 B いよいよですね先生。

小林 え…ああ、僕の方。

監守 B 私、明日は夜勤で、送別会出席できないんです。

小林 ああ、そうなの。そりゃ残念だ。

監守 B 先生にはお世話になりっぱなしで。

小林 こちらこそ。ま、まだどこかで会えるよ。

監守 B はい。では…ああ、それと、夜間診察の規則が、今月から変わりました…

小林 はいはい。20分リミットつて奴ね。承知しています。

監守 B お時間の少し前にインターフォンでお知らせします。

小林 了解。

監守 B じゃあ、よろしくお願いします。

小林 …あ、南森さん…悪いけど、僕も最後だし、少しプライベートな話もした

いから、呼ぶまでは誰も来させないでね。

監守 B はい。任せといて下さい。では…

小林 よろしく。

大扉側の通路へ去る監守 B。ゆっくりと椅子に座る柴田。

小林 (おもむろに小瓶を取り出し) やりますか? こっそり。

柴田 いえ。

小林 そう…そうだよな。じゃあこれ。

白衣のポケットから何かの包みを取り出す小林。

小林 ○○饅頭。好物でしょ?

暫しの間。手で「いただきます」の仕草をしてゆっくり食す柴田。

小林 熱いお茶が出せなくて恐縮だけど…

自分も食べる小林。この間に窓外を人影が横切る。哀愁の郷田である。

小林 それにしても何だよな。僕の移動が先に決まって、そのギリギリの昨日に、

あんたの仙台送りの内示。うまく出来てる。

柴田 はあ…

小林 ま、その分、僕へは温かい視線があるから、こうして急な面会も無理なく

許可されたわけだけど。

柴田 やはり、脱走の件の責任ですか?

小林 まあ、お役所は遠回しだから、随分遅れてのことだけどね。

柴田 なるほど。

小林 …いや、僕よりも、連さん…いよいよですね。

柴田 …先生。ワシは、お迎えの話、ついさっき聞きました。

小林 えっ? …ああ、そうなんですか。

柴田 だから、先生からの面会依頼の方が一日早かったです。それでお迎えを察

しました。

小林 そうですか…いや、それはすまなかった。

柴田 先生が謝る話じゃありません。まあ、春の恩赦の前に、私を片付けておく

だろうとは、思っていましたし…

小林 …連さん…

柴田 …それで、録音するですか?

小林 …ああ…最近技術が進歩してね、ココに入れておけば、いろいろ後から

処理ができるらしい。

柴田 私のもっとすごい機械が並んでいるのかと…

小林 それじゃあ目立ち過ぎるでしょ。

柴田 先生…私ね。あれからいろいろ考えて、やはりお断りしようかと思ってい

た時もあったんです。

小林 はい。

柴田 でも、それを見て、やはり話そうと思います。こんな小さなもので録れる

のなら、先生は何も私に承諾なんか取らなくても、こっそり盗聴で済みますも

のね。

小林 …連さん…いや、そういう手があったか。気が付かなかった。

柴田 (微笑んで) またまた…じゃあ、始めましょうか。

小林 ああ…うん。(頭を下げ) 頼みます。

ゆつくりとレコーダーのスイッチを入れる小林。

**小林** 編集も、後から自在にできるらしい。気楽に喋って下さい。あ、もちろん柴田監修には僕も立ち会いますから、揺造の心配はなく。

**柴田** はい。

**小林** 何かこちらから質問で話を進めましょうか？

**柴田** いえ……あれから、ずっと考えてたんです。先生のためとはいえ、私に世間に残す最後の言葉です。ずくっと考えていました。お陰で、普通なら呼びがかかるまでの予感の中、死の恐怖に震える時間を、とても有意義に過ごせました。

**小林** 連さん……

**柴田** 先生はどんな内容でもいいとおっしゃって下さったが、ワシは……やっぱ事件の事しかお話しできない。

**小林** えっ？

**柴田** もう20年近くも昔のことです。正直、細かいことは、忘れてしまつてい**監守 B** ……連れてつて……  
**小林** ……あつた出来事が、何か、こう……一緒になつてしまつてい**監守 B** ……はいから！  
た話や、無実を信じてくれる人達の言葉が、ぐちゃぐちゃしてい**監守 B** ……はい。失礼します。  
わかりますか先生。

**小林** ええ……何となくですが、想像はできます。

**柴田** ただ……ただね先生。やっぱ、わし、殺したです。

**小林** え……！……連さん！

**柴田** 5人だったか、6人だったか覚えてはいないが……やっぱ殺したですよ、先生。

**小林** 連さん！

録音を止めようとする小林。その手をガツシリ掴む柴田。

**小林** 連さん……

ゆつくり手の力を抜く柴田。

**柴田** 小林先生……ワシに今話せるのはこれだけです。後は全て先生にお任せします。

**小林** 連さん、あんた……

**柴田** 監守さん呼びましょう。

**小林** しかし……！

**柴田** 本当に……お世話になりました。

頭をさげ、テーブルに近づきインターフォンの受話器を持つ柴田。その意味を悟り受け取る小林。

**小林** ……小林です。120番をお願いします。

SEの後、監守Bが駆けつける。

**監守 B** ……先生……何かありましたか？

**小林** ……連れてつて……

**柴田** はあ……でもまだ時間は……

**小林** ……はいから！

**監守 B** ……はい。失礼します。

大きな敗北感の中、しばし動けない小林。やがて、レコーダーを見つめやがてゆつくり操作をする。ウイスキーをググッとあおる。もう一度飲む。このあたりで再び窓の外を哀愁の郷田が横ぎり、中を見る。微笑んで窓の外の鉄格子を外しにかかるが上手く行かず一旦姿を消す。既にテーブルに伏せている小林。やがて一般通路側から入室する郷田。

**郷田** 先生。小林先生。

動かない小林。ふと天井を見る郷田。球切れしている電灯をじつと見つめる郷田。パツと明かりが灯る。ニツコリする郷田。

**郷田** 先生、起きて下さいよ。せつかく来たんですから。

その声に、ゆっくり顔を上げる小林。暫し視線が合い、にっこり笑う郷田。やがてつまらなそうに小瓶を傾げる小林。

慎重に受け取り、懐かしそうに眺める郷田。つまらなさそうにウイスキーを傾げる小林。

小林　なんだ、お前か。

郷田　なんだはないでしょ、先生。

小林　さつさと成仏しろよ。迷惑してんだから。

郷田　またまた心にもないことを。

小林　お前ねえ…

郷田　実は耳よりな情報がありました。

小林　また、マンドラゴラの一件？

郷田　え、何で分かるんです？

小林　懲りない奴…

郷田　実は、その後の調査で、どうやらこの拘置所内でのマンドラゴラは、違つたモノとして伝えられてきたようなんです。

小林　えっ？…

郷田　誰かが、何かの目的で、イメージの握造を図つたようなんですよねえ。

小林　郷田、お前…

郷田　3人ほど死んでるでしょ？　今は切り倒された所内の桜の木の幹で…

郷田　どうです？　なかなか興味深い話でしょ？

小林　…フフ…ハハ…わざわざ、そんな事を伝えにきたわけ？

郷田　いえ…今日は、先生にお別れを言いに来ました。

小林　えっ？…じゃあ、とうとう行くのか？

郷田　ええ…ああ、もう一度、子供の顔を見てからにしようとは思ってるんです星田

小林　が。…そう…全く、どいつもこいつも、自分勝手なんだから…

郷田　そんなもんですよ、先生。「さよならだけが人生だ」つてね。

小林　そんなもんかねえ。

郷田　それでね先生。最後に一つだけお願いがあるんですが、ほら、皆で記念撮

小林　影したでしょ。あれ、いただけませんか？

小林　（内ポケットから写真を取り出し）ほら、もってけ。

郷田　なんだ、ちゃんと持ってたんですね。

郷田　貴重な一枚です。この前も自分で撮つてみたんですけど、全然写らないんですよ。

小林　ま、普通はそうでしょ。

郷田　声もね、星田先生のレコーダーに入らないんです。

小林　だから、勝手に使うなよ、亡霊の分際で…

郷田　あれ？　ああ、そう、それぞれ。星田先生の…どうしたんです？

小林　ん？　ああちよつと借りてね…（白衣のポケットに片付けながら）結局しくじつただけだね。

郷田　へえ、先生でもしくじるんですか？

小林　大きな勝負に敗北してさ…一発逆転をくらつたのね…まさかああ来ると

郷田　は…背負いきれないって、俺じゃあ…

小林　…おい！　道化！　…

郷田　えっ？　（嬉しそうに）何ですそれ？

小林　いや…早くお行き。

郷田　ええ、では先生、末長くお達者で。

郷田　通路から去る郷田。見送らず、テーブルに伏せたまま、手だけを振る

小林　通路から去る郷田。見送らず、テーブルに伏せたまま、手だけを振る

小林　通路から去る郷田。見送らず、テーブルに伏せたまま、手だけを振る

小林　通路から去る郷田。見送らず、テーブルに伏せたまま、手だけを振る

小林　通路から去る郷田。見送らず、テーブルに伏せたまま、手だけを振る

小林　（ゆっくり顔を上げ）…どうも。（グピッと飲む）

星田　あ、またやってますね。去り際の特権乱用。

小林　いつそ共犯になりませんか？

星田　いえ、今日は…明日、送別会でたつぷりと。

小林　あ、そうか、これから白井さんの…

星田　ええ、いわゆる大一番つて奴ですね。全然自信はないんですか…（天井を

見て）あれ？

このあたりで窓の外を歩行する郷田。

星田 これ直して下さったんですか？ 電灯。

小林 え？……あの馬鹿……

星田 えっ？

小林 ああ、いや……いいですね先生は。

星田 また「精神科はドラマチックで」……ですか？

小林 いやいや、何と言うか、その……汚れがなくて。

星田 えっ？

小林 ああ、そうそう。先生が持ってこられた〇〇〇の置き物。

星田 ええ……あれ？

小林 患者にやられましたねえ。貴重品だったの？

星田 ああ、いえ、学生時代に誰かにもらった物なんです、何となく捨てにくくて持ってただけの代物で……

小林 じゃあ……もし見つけたら、僕にくれます？

星田 ええ、そんな選別でよければ喜んで……

小林 何だ、そうだったの。

星田 えっ？

小林 いやいや……ああ、そうそう（レコーダーを渡し）これ、どうも。

星田 ああ、うまく撮れました？ 柴田氏の脈拍。

小林 ええ、もうバッチグーです。いい記念になった。

星田 はあ。ああ、でもデータは？ 良ければメモリーに録りましょうか？

小林 いや……それも済ませて消去してありますから。

星田 そうですか……

小林 じゃあ、まだ片付けがあるんで……

星田 明日、楽しみにしてますから。

後ろ手を振りながら、通路より去る小林。上手の白衣へ向かい、その  
一つのを着ようとして思いとどまりフックに戻す。レコーダーを眺め  
スイッチを入れる。

かしらの目的を持ってマンドラゴラのイメージを精神治療に用いていたこと

は明白である。そしてこの施設は、中庭あたりに、かつては桜の太木を持って  
いた。今は切り倒されたその太木は、頑丈な枝を持っており、在監者の2人が、  
相次いでその枝を使い命を断った。いずれのケースもどうやってロープを入手  
したのかは不明。そして、私の前任者もまた半年後、その枝を同じ目的で利用  
した。2人の患者と同じロープを用いて……彼の実験は、自らの死でその幕を降  
ろしたのだらうか？ とにかく、これがこの鳥森拘置所の最大級のタブーであ  
ることには、変わりがない。……私の興味本位の探求心もこれが潮時だと思  
う。アマチュアは所詮アマチュアなのだ。白井節の件でも大きな代償を払わされ  
ように……一通りの私の推理は、小林先生にレポート提出した。これで、幕を  
降ろそうと思う。彼の意見は、明日の2次会でじっくり聞こう。酒の肴には十  
分な話題だ……ここに来て10ヵ月が、川面のように流れた。私はまだ誰も救  
えていない。救われてばかりいる。せめて桜の季節には……

大扉のS.E. やがて監守Aが入る。

監守A 失礼します。……あ、録音中でしたか、すいません。

星田 （レコーダーに向かい）せつかくの考察の途中だったが、監守の寺田さん  
がやってきた。何か話してもらおう。

監守A ……え……あー、あー、〇〇〇〇は〇〇〇〇であります……

星田 彼女は緊張すると意味不明なことを話す。

監守A ……えと……73番、白井節の診察準備完了です。いつでも来れるよう、待  
機中です。

星田 彼女には、いつもお世話になっている。とてもキュートな女性である。

監守A いやだ、先生。（バシン）

星田 彼女たちは特殊な勤務のため日々訓練されており……

監守A （バシッ、バシッ）

星田 かなり痛い。

監守A あ、すいませんでした。

星田 （スイッチを切って）ご苦労さんです。こちらはいつでも。

監守A じゃあ……ちよっとお借りします。（インターフォンに向かい）南森先

生 惑の一件は、自分なりの考えに至った。私の前任者・精神科の板垣医師が、何

星田 寺田さんは、楽をした。

監守 A あ…

見つめあう間。SEに続き、監守Bと白井が入る。

星田 ご苦勞様です。こんにちは白井さん。

白井 こんにちは。

監守 B ええっと、先生。今月からの規則で、夜間の診察は…

星田 20分リミットですね。承知しました。では、よろしく。

監守 A & B 失礼します。

大扉から去る監守A & B。

星田 どうぞ、そこへ…。

白井 はい。(座る)

星田 久しぶりですね。11月以来かな…

白井 いえ、裁判の席で一度…

星田 ああ、そうか…有利な証言ばかりできず、すいませんでした。

白井 いえ、私には難しい話ばかりで…よく判りませんでしたし。

星田 でも、白井さん、しつかりしました。頑張っていましたよ。

白井 はい。…でも、コウさん、裁判に来てくれないし、それに面会にも一度も星田

星田 ええ、そうですね。…あれ、白井さん、何だか今日は綺麗ですねえ。

白井 え？…そんなことないです…ただ、お母さんが新しい服を差し入れてく

れたから…

星田 とても似合ってますよ。…ああ、そう、先日、白井さんのお母さんから、星田

手紙をもらいました。

白井 ……そうですか…

星田 はい。僕に…白井さんのことをよろしく、と書いてありました。

白井 ……はい。

星田 ねえ白井さん。白井さんは、僕のが好きですか？

白井 えっ？…先生…

星田 ああ、唐突にすいません。別に白井さんの気持ちはいいんです。ただ僕は星田

白井さんを初めて見た時から…ほら、覚えてますか、郷田さんが白衣を来てい

て、僕はすっかり小林先生と間違えて…

白井 ええ、覚えています。

星田 あの時から、僕は白井さんを、好きになってしまったんです。

白井 ……先生…

星田 驚かせてすいません。

白井 いえ…。(持っていた紙袋を取りだし)あの先生…これ…少し早いで

すが。

星田 えっと…僕に、ですか。

白井 チョコレートの代わりです。

星田 え…ああ、セント・バレンティン。…あ、でもいいのかなあ、房内の規

則が厳しくなってるみたいだけど…

白井 ちゃんと願箋を出して、所長代理様の許可をもらいました。

星田 そうですか…岸野代行の…じゃあ、有り難くももらいます。開けていいで

すか？

白井 いえ、ここではダメです。ヘタクソですし…後にして下さい。

星田 判りました。そうします。

紙袋を脇に置く星田。

星田 ねえ、白井さん。

白井 はい。

星田 お互い、いつもとはいかないでしょうが、僕は、できる限り、白井さんと

一緒にいたいと思っています。

白井 はい。

星田 でも今はまだ、僕は白井さんの担当医であり、白井さんは僕の患者です。

だから僕は、一日も早く白井さんの病気を治したい…この意味判りますか？

白井 はい先生。

星田 だから、今日は、少し白井さんを苦しめるかも知れませんが。白井さんが事

件のことを思い出してくれないと、僕はいつまでも白井さんの医者でいなけれ

ばならない。

白井 私か治れば…思い出します、頑張つて。

星田 ……だから、僕は、今日は白衣を着ないことにしました。僕は医者ですが、

白井さんの前では着ないことにしました。



白井 お休みなさい。  
星田 ああ、お休みなさい。

扉が締まるS.E。椅子に座り、深い息をつく星田。白井からの紙袋を星田  
見つめ開封する。手編みのマフラーを眺め、机の上に力なく放る星田  
星田 通路からバッグを持ち外出着に着替えた小林が登場。

小林 どうしました？ 先生。

星田 ああ…これはどうも…何か？

小林 ああ、いやね、レポートをお返ししとこうと思って。星田俊介作「マンド  
ラゴラ異聞」。

星田 ああ、わざわざどうも…

小林 いや、なかなか見事な推理です。まあ、タブーに近い話だから、あまり大  
声で評価はできないが…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

星田 いえ…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

僕がやっている治療も…：…

小林 じゃあ…思い出しましたか、白井さん…

星田 ええ…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

小林 いや、判りませんよ。

星田 えっ？

小林 人の気持ちって奴はね。一体どこからやってきて、どこへ行くのか…

星田 はあ…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

小林 ああ、ええ…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

星田 え、向かうって…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

小林 うん。せつかく送別会組んでもらったんだけど、ああ、キャンセルするな  
ら後で代金を請求してね。

星田 ああ、それは大丈夫でしょうが、それにしても…：…

小林 岸野さんすっかり挨拶できなかったのが心残りだが、ま、先生からうま  
く言っというて。

星田 かし…：…

小林 荷物の手配も終わっているし…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…：…

星田 はあ。

小林 あ、これ、選別。(戸棚のお気に入りにグッズを渡し)新しい人が入ったら、  
星田

ぜひ伝統的に歓迎して下さい。

星田 判りました。僕は明日だと思って何も…

小林 ああ、いいからいいから。先生からは既にちゃんと戴いてある。

星田 将棋の「待った」の分ですか？

小林 いやいや、恋のイロハの四方山話。

星田 そんなあ…

小林 さて、監守さんたちに挨拶してと…：…：…：…：…：…：…

星田 はい。お世話になりました。

小林 うん。

星田 向こうでもお達者で。

小林 はい。…：…：…：…：…：…：…

大扉への通路に向かい、足を止める小林。

星田 ああ、先生。

小林 はい。

小林 その「マンドラゴラレポート」の終わりのほうですが…：…

星田 ええ…：…：…：…：…：…：…

小林 最後に首を吊った板垣医師ですけどね。本当に、実験の罪を悔いて自殺し  
たんでしょか？

星田 え？

小林

小林 いや、彼の人体実験ぶりを知り、見るに見かねていた人物が、自殺に装っ  
て葬ったケースもありえると思ひましてね。

星田 ああ、いや、確かに…：…

小林 「天に変わって成敗する」…：…：…：…：…：…：…

星田 …：…：…：…

小林 星田さん…：…：…：…：…：…：…

星田 …：…：…：…：…：…：…

小林 …：…：…：…：…：…：…

星田 …：…：…：…：…：…：…

小林 …：…：…：…：…：…：…

去る小林。追うのを止め、テーブルのレポートを読む星田。とある可能性に気付き、思わず立ち上がり小林の去った方向を振り返る。暗転。

一般通路より入る星田、外出から戻った様子。単色の手作りっぽいマフラ―が印象的である。

【SCENE・5】初めてのフル暗転の中、ピアノ曲が聞こえてくる。窓奥ゆつくり「春の午後」。やがて舞台中も溶明。桜、時々チラホラ窓外を舞う。無人の舞台にやがて大扉のSE。岸野と新任の鈴木、酌量の余地が、論議の中心です。木医師が立っている。鈴木はかなりの高齢だ。

岸野 ……どうぞ。

鈴木 どうも…

岸野 ……とまあ、大急ぎで紹介しましたが、足りない部分はいつでも気軽にお願いします。

鈴木 ……あ、はい。

岸野 それでは、ここからが医務部になります。何分古い施設ですが、部屋割りについては精神科の星田先生と相談して決めて下さい。

鈴木 ……そうですかあ…

岸野 星田先生とは？

鈴木 ……え？

岸野 星田先生とは？

鈴木 ああ、ええ、いやあ本当ならば、しっかりご挨拶をするのが筋なんです。うが、何分、引越しやら何やらでバタバタしてまして…そうそう電話回線も星田

頼んであった業者が…

岸野 まだ、面識はないんですね。

鈴木 ……はい…どうぞ、すいません。

岸野 私に謝られても困ります。

鈴木 ……すいません…

岸野 若くて、患者にも意欲的で、その…いい先生です。

鈴木 あくそくですか、はいはい。

岸野 ……ご自分でお持ちですか？ 白衣。

鈴木 ……えっ？ 何を？

岸野 ……えっ？

岸野 ……えっ？

星田 ああ、どうぞ。

岸野 お帰りなさい。どうでした？ 白井さん。

星田 え？ ああ…（慌ててマフラ―を取り）ギリギリですね。あくまで情状酌量の余地が、論議の中心です。

岸野 そうですね。…ちようど、良かったです。こちら、小林先生の後任で、鈴木さん。

鈴木 ……どうぞ…内科の鈴木シゲルです。よろしくお願いします。

岸野 この秋まで開業医をなさっていたそうです。

星田 そうですか。星田俊介です。よろしく。

鈴木 判らないことばかりですので、一つご指導を…

星田 いえいえ、僕も2年目の新米です。すぐ慣れますよ。

岸野 はあ…

星田 じゃあ、星田先生…後は宜しくお願いします。

星田 はい。

扉側に去る岸野。頭を下げて見送る鈴木。扉のSE。壁の白衣を羽織る星田。

星田 まあ、どうぞ。

鈴木 はあ…

星田 お疲れ様でした。いろいろ引張り返されたでしょう？ 監内を…

鈴木 あのお…

星田 はい…

鈴木 ここ、タバコ吸えるですか？

星田 え、ああ…（別の場所から3つ目の灰皿）…どうぞ。

鈴木 こりや、どうも、あいすいません。

火を付け、しみじみと吸う鈴木。静かに鈴木を見つめる星田。遠くのBGMはいつしかラジオ体操に変わっている。

鈴木 …とんでもない所に来ちゃいました。  
星田 えっ？…  
鈴木 え…ああ、いや、これは失礼…  
星田 いえ…

もう1服、深々と吸う鈴木。

〈おしまい〉

星田 鈴木先生、将棋は指されますか？  
鈴木 え、何を？  
星田 将棋です。  
鈴木 ああ…いやいや、そういう小難しいのはどうも…あ、これまた失礼…  
星田 ああ、いえ…

さらにタバコをふかす鈴木。そんな鈴木を、穏やかに眺めながら、白衣から取り出した文庫本を読み出す星田。

鈴木 …ああ、でも…えっと…  
星田 星田です。  
鈴木 ああ、すいません…  
星田 何でしょう？  
鈴木 家内ではどうでしょう？  
星田 はい？  
鈴木 ずっと塞ぎ込んでましてね…あれは、鬱なのかなあ…  
星田 ああ…もしかして将棋…  
鈴木 ええ。ココに来るのも、随分嫌がつてたんですが…子供もとつくに手を離れて一人なんです…  
星田 判りました。ご挨拶がてら近々遊びに行かせて下さい。  
鈴木 よろしいですか？ 助かります。駅前の賃貸で手狭なんだが…  
星田 ええ…いろいろ、ゆっくりやりましょう。  
鈴木 はあ…

暫し動きを止める2人。やがてマイムで少しの会話。その後、星田は読書に、鈴木は喫煙に戻っていく。その間に極めてゆっくり明かりが溶暗していく。やがて最後の明かりにゆっくり舞い落ちる桜が写し出されて暗転。

いつしか終わっていたラジオ体操のBGM。静かな楽曲が流れる。いささか不条理に明かりが窓外中心のそれに変化する。シルエットの中、